

# 公益社団法人青少年健康センター 2024 年度事業報告

## 1. 法人の基本情報

### (1) 法人の概要

#### ① 法人の目的

公益社団法人青少年健康センターは「青少年問題についての調査研究及び知識の普及啓発を行うとともに、精神的不適応等青少年の行動上の問題に対し適切な相談指導を実施し、もって青少年の健全育成と公共の福祉増進に寄与すること」を目的としております。(定款第1章 第3条)

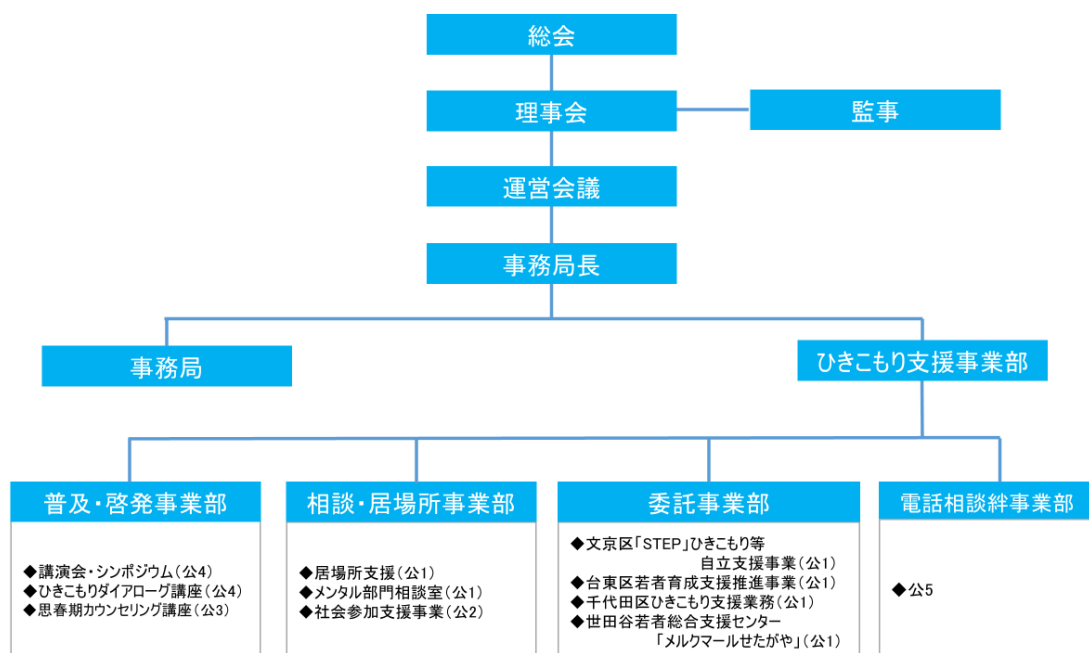
#### ② 業務内容

当法人は、定款第1章 第3条の目的を達成するために以下の業務を行います。

- i) ひきこもり等生きづらさを抱える若者への相談・居場所支援事業(公1、公2)
- ii) ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業(公3、公4)
- iii) 若者の自殺予防を図る無料の電話相談「電話相談 絆」事業(公5)

#### ③ 組織図(2025/03/31)

### 公益社団法人青少年健康センター組織図



(2) 役員の状況

作成日:2024年7月1日

公益社団法人 青少年健康センター

2024年度 役員等名簿

役職名	氏 名	職 業 等	備考
会長	斎藤 環	筑波大学名誉教授	非常勤(重任)
副会長	井利由利	公益社団法人青少年健康センター 茗荷谷クラブチーフスタッフ	非常勤(重任)
理事	藤堂宗継	医療法人社団雄心会山崎病院	非常勤(重任)
	岩佐壽夫	家庭ケースワーク研究所 所長	非常勤(重任)
	笹原信一郎	筑波大学 准教授	非常勤(重任)
	芳賀雅子	働けない子どものお金を考える会	非常勤(重任)
	伊藤亜矢子	学習院大学 教授	非常勤(重任)
	時盛昌幸	公益社団法人青少年健康センター 事務局長	非常勤(重任)
	菊池 章	医療法人白翔会浦和神経サナトリウム 院長	非常勤(重任)
監事	佐藤 容子	横浜あかり法律事務所	非常勤(重任)
参与	中島聡美	武蔵野大学 教授	
名誉会長	齋藤友紀雄	公益社団法人青少年健康センター 前会長	

## 2. 事業の説明

2024 年度(自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)の事業報告を下記の通りご報告いたします。

### (1) 法人事業

#### ① 青少年健康センター 理事会開催

##### i) 第 1 回理事会開催

2024 年 5 月 25 日(土)17 時 00 分より青少年健康センター三軒町ビル 205 号室にて 2024 年度第 1 回理事会が開催され、会場・オンライン同時開催にて行われました。総理事 8 名のうち理事 5 名、監事 2 名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第 1 号議案 2024 年度定時総会開催について」、「第 2 号議案 2024 年度決算・事業報告について」が挙げられ、それぞれの書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。また報告事項として「会長及び副会長の職務執行報告」が行われました。

##### ii) 第 2 回理事会開催

2025 年 3 月 15 日(土)17 時 00 分より青少年健康センター三軒町ビル 205 号室にて 2024 年度第 2 回理事会が開催され、会場・オンライン同時開催にて行われました。総理事 8 名のうち理事 7 名、監事 2 名のご出席により、過半数が認められたため、理事会が成立いたしました。

当日議題として「第 1 号議案 2025 年度事業計画・収支予算について」、が挙げられ、書類を提示し、詳細を説明したところ、満場異議なく承認可決されました。報告事項として「会長及び副会長の職務執行報告」が行われました。

#### ② 青少年健康センター第 11 回 定時総会開催

2024 年 6 月 15 日(土)17 時 00 分より 青少年健康センター三軒町ビル 205 号室にて定時総会を開催され、会場・オンライン同時開催にて行われました。総社員数 39 名のうち、出席社員 23 名(委任状出席 15 名)により、過半数が認められたため、総会が成立いたしました。

当日議題として「第 1 号議案 2023 年度事業報告及び決算の承認に関する件」が挙げられ書類を提示し、詳細な説明したところ、満場異議なく承認可決されました。また報告事項として「2024 年度事業計画および収支予算に関する件」について報告が行われました。

#### ③ 職員総会の開催

2024 年 11 月 2 日(土) キャロットタワー 26F にて、第 7 回職員総会が開催されました。総勢 32 名の役員・職員の皆様にご参加いただきました。本会では青少年健康センターの事業紹介・方針の発表などを職員一同で共有いたしました。

## (2) 公益事業

2024年度の公益事業における全体の利用実績が16,359件(月平均1363.3件)となりました。2023年度が15,910件(月平均1325.8件)であり、全体での利用件数はわずかですが増加となっております(年度比102.8%)。詳細は以下に記載いたします。

### ① ひきこもり・不登校に対する自立支援

#### i) 心理相談(茗荷谷クラブメンタル部門相談,※公1に該当)

総延相談件数8,276件(茗荷谷相談\*:1,661件、世田谷相談:6,334件、電話:281件)となりました。2023年度が7,995件であり、心理相談事業の利用数は増加となりました(2023年度比103.5%)。事業ごとに比較したところ、世田谷においては相談件数が増加し(2023年度世田谷相談5,876件 年度比107.8%)、茗荷谷本部においては減少となりました(茗荷谷相談1,837件 年度比90.4%、電話2023年282件 年度比99.6%)。世田谷相談では、生活困窮者支援を運営する事業者と協働している「リンク」の影響からか、利用件数は年々増加傾向にあります。茗荷谷での相談においては2024年度においては減少となりましたが、ここ数年と比較しても高い件数を維持しています。

2016年度より受託した「国士舘高等学校および中学校の生徒カウンセリング業務に関する業務委託」では、年間75日訪問し、国士舘学校内の相談室を運営し相談業務を行いました。

委託事業において、ひきこもり相談窓口のたちあげ・拡充(千代田区・文京区)にまつわる相談利用に関して、落ち着きを見せました。一方で、世田谷区では重層的支援体制整備事業がすすみはじめ、相談対応の増加が見られた年でした。

\* 文京区・台東区・千代田区委託事業も含む

#### ii) 居場所事業(茗荷谷クラブ,※公1に該当)

茗荷谷クラブおよび世田谷事業における居場所運営においては、4,805件(茗荷谷居場所:3,319件\*、世田谷居場所:1,482件)となりました。2023年度は4,471件であり(年度比107.5%)年度で比較すると増加となりました。茗荷谷クラブ、世田谷のそれぞれの居場所活動の年度比較をみると、茗荷谷クラブ(2023年度2,920件、年度比113.7%)では増加、世田谷(2023年度1,551件、年度比95.5%)では減少となっています。茗荷谷クラブにおいては集団活動のニーズが高く、新規のご利用者様が増加し、利用件数の増加につながりました。世田谷では居場所活動に新規に参加する方が少なく、全体の件数も減少となりました。相談件数が大きく増えていながら、居場所件数の減少している傾向は例年と変わっておらず、世田谷では相談事業等のニーズの高さが見られます。

茗荷谷クラブが実施している居場所活動の中で、低料金・単発性・登録が不要(匿名性)といった参加のハードルが低いものに関しては、高いニーズが認められました。委託事業で見られる地域住民限定の居場所活動は先細りが予想され、自治体の垣根を越えての広域での運用は今後必要と考えられた年でした。

\* 文京区、台東区、千代田区委託事業も含む

iii) 社会参加支援事業(※公 2 に該当)

2024 年度の総件数は 1,693 件となり(2023 年度 1,808 件、年度比 93.6%)、2023 年度と比較すると減少となりました。中間的就労、職場体験、ジョブトレーニング等の職場を提供し、参加いただいたご利用者様の総延数は 1,498 件でした(2023 年度 1,499 件 年度比 99.9%)。また社会参加への準備を実施する「社会参加準備グループ」には延利用者数 102 件(2023 年度 130 件 年度比 78.5%)でした。件数では減少となっていますが、事業規模等は維持できており、大きな変化なく 1 年間事業を遂行できたものと思われます。クラブ以外の外部交流のきっかけを提供する「農業活動」「サッカークラブ活動」などは延 93 件(2023 年度 179 件 年度比 52.0%)となりました。農業活動については、参加者数の減少が見られ、2025 年度においては活動を休止することになりました。ただし、こちらで培ってきた地域の方々の関係性などは今後も維持していく予定です。

その一方で、ソーシャルファームの企業、社会福祉協議会経由での地域の団体とつながり、ボランティア・内職・中間的就労など様々な社会参加の機会を創出してきました。また、様々な就労支援機関への同行支援といったケースワークも多い年となりました。

② ひきこもり等生きづらさを抱える若者に関する知識の普及啓発を目的とする事業

i) 思春期カウンセリング講座(※公 3 に該当)

2024 年度の思春期カウンセリング講座の開催を中止いたしました。

ii) 「ひきこもりダイアログ」講座(※公 4 に該当)

会長である斎藤環氏を中心に原則月に一回行われております。2024 年度は計 6 回開催し、462 名の方のご参加がありました。2023 年度では 10 回開催、年間 470 名であり微減となりました(2023 年度比 98.3%)が、1 回あたりの平均で比較すると、2024 年度が 77 名、2023 年度が 47 名となり、参加者は大きく増加し、1 年を通して活気のある講座が行われたと考えております。また講座に多くの方が参加することによって、参加者同士の交流が増え、その中でつながりも多く見られるようになりました。

以下に 2024 年度の開催一覧を掲載いたします。

講座名		会場	日付
AM	PM		
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台	4月20日
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台	6月29日
理論編	対話ワーク	連合会館	9月14日
理論編	—	キャロットタワー	11月2日
理論編	対話ワーク	アカデミー茗台	1月18日
理論編	—	アカデミー茗台	3月15日

### iii) 講演会・シンポジウム(※公4に該当)

2024 年度に開催した講演会は以下の通りです。

講座名	開催方法	講師名	日付
文京区 講演会 「ひきこもり」からの生きなおし ～社会と離れてもう一度つながるまで	文京区民センター 3-A会議室	岡本圭太氏 (社会福祉士、精神保健福祉士)	6月22日
文京区 講演会 ひきこもりのご家族の関わり方 ～ゼロから学ぶ"ひきこもり"へのケア～	文京区民センター 3-A会議室	益田裕介氏 (精神科医)	10月27日
文京区 講演会 ひきこもり家族のライフプラン	文京区民センター 3-A会議室	畠中雅子氏 (当センター理事)	2月15日
台東区 講演会 誰もが活躍できる「働き方」を考える ～ひきこもりから社会への一歩～	台東区役所 10階会議室	小関智宏氏 (ディースタANDARD株式会社 代表取締役) 倉光洋平氏 (当センター支援管理部長)	6月8日
台東区 講演会 周りを頼れない子たちが笑えるために ～サンカクシャの取り組みと若者の声から～	台東区役所 10階会議室	寺中湧飛氏 (NPO法人サンカクシャ)	10月12日
台東区 講演会 私が、うちの子が、ほっとできる ～台東区のさまざまな"居場所"～	台東区役所 10階会議室	小玉周平氏 (台東区社会福祉協議会)	3月1日
千代田区講演会 ひきこもりと多様な働き方 ～ひきこもりながら社会とつながる～	千代田区役所 401会議室	山田 邦生氏 (株式会社Meta Anchor 代表取締役)	11月30日
千代田区講演会 ひきこもりながらも社会とまざること ～居場所を見つめ直す～	ちよだんごカフェ Live配信	山田 邦生氏 (株式会社Meta Anchor 代表取締役) 割田大悟氏 (ひきこもり当事者グループ「ひき桜」) 倉光洋平氏 (当センター支援管理部長)	12月12日

2024 年度では計 8 講座を開催し、計 249 名(1 開催あたり 31.1 名)の方にご来場いただきました。2023 年度では計 8 講座 292 名(1 開催あたり 36 名)であり参加者は減少となりました。2024 年度ではセンター主催のシンポジウムは中止となり、文京区、台東区、千代田区の 3 区での講演会を中心に行われました。以前から各講演会について幅広く広報活動をおこなっているため、各区の参加者状況は安定して集客できるようになりました。

### ③ 電話相談絆(※公 5 に該当)

2024 年度の総相談件数は 874 件となりました。2023 年度が 874 件であり、相談件数は同数となりました(年度比 100%)。2024 年度においては、ほぼ出勤して電話相談の対応を行っており、在宅での相談は非常事態時に実施できるよう日々準備をしております。運営体制や、人員の配置など課題も多いですが、今後も現在の事業規模を維持しつつ進めてまいります。

以上、2024 年度事業報告をさせていただきました。相談事業や居場所支援事業は例年どおり堅調に推移し、その他の事業については減少や同程度の件数という結果となりました。今後も上記 2 事業を運営の中心として進めていくものと思われます。またひきこもりダイアログ講座は見直し図った結果、状況が改善した 1 年間でもありました。回数を減少した結果、会員の減少等の懸念もございましたが、講座等の満足度が高いためか大きな変動がありませんでした。今後もさまざまな事業において見直しを図る必要性が発生するかと思われますが、その効果も実感できる 1 年でもありましたので、必要な時期において各事業担当者と検討を重ねてまいりたいと考えています。

今後とも多くの皆さまのご期待に添えられるよう、より安定した各公益事業の実施、より社会に求められる事業運営を行ってまいります。職員全体で力を合わせて社業に注力する所存です。どうぞなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上